

# たより



ユッカの会会報 第23号 平成24年2月2日(木)発行  
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター12階  
かながわボランティアセンター(情報コーナー)内 ユッカの会代表 沼波万里子

## 天災・人災の年明け

沼波万里子

新しい年が明け、改めて過ぎ去った一年を振り返る時何という災害の年だったかと胸痛む思いが致します。

忘れる事の出来ない3月11日東北を襲った大地震と津波は、今もその爪跡を残し被災地の方々の多くは現在なお不自由な日々を過ごしておられます。これが単に天災だけでしたらもう既に復興に向けて活発に活動がすすめられている筈ですのに放射能もれという目に見えない恐怖には唯もう言葉もございません。

日本ばかりでなく各国に起る洪水、竜巻等地球全体が滅びの道を進んでいるような不安をかくし切れない昨今でございます。

こうした中で私が何より嬉しく思いました事は沢山の若い方達が自らボランティアを希望して災害地へ赴かれた事です。戦時の苦勞も知らない若者がこぞって被災者の手助けをされている姿に日本はまだまだ健全だという想いを強くもちました。当ユッカの会の皆様も全く純粋なボランティア精神

の元に活動して下さっており感謝の気持ちでいっぱいでございます。最近とみに体力、気力の衰えを覚える私にとりまして、会の皆様のお力が何よりの支えになっております。

天災は忘れた頃にやってくる…ビルの建ち並ぶ東京横浜の大都市に突として震度6の地震が襲う時の事を思うとぞっと致します。

温泉のわき出る日本は正にマグマの上に連なっている島国にて、何時何が起ってもおかしくない状況下にあると言えましょう。

かつて広島長崎に原爆を受けた時は今のような検査能力もないまま汚染された食材を食べて飢えをしのいでいた事を思い出します。戦禍に一度は破壊されながらここ迄復興を遂げた日本の平和が何時までも続くことを祈ると共に、抗す術のない天災に対しての備えを日々心掛けてゆきたいと切に願ってやみません。

進歩とは自然破壊に通じるや

原発事故のどこまでつづく

(ユッカの会代表)

\* 本稿は沼波代表から

2011年末にいただいたものです。



## 秋の蟹

李氷



一年中蟹をたべられます。ただし秋は蟹を食べるのに最高の季節です。毎年9月から10月にかけてちょうど蟹の味噌や油がいっぱい詰まっている時です、この季節と蟹の成長は大きい関係があるのです。ですからその時の蟹は肉が厚く、やわらかいです。9月の雌蟹は最も肥えていて、蟹の卵も多いから9月雌の蟹を食べるとよいです。10月に入ったら雄の番です。この時期雄の蟹は味が最も濃く、脂も乗っています。

去年秋のことでした、一緒に仕事をする同僚は私に世界で一番大きい蟹を食べたことかありますかと聞きました。“タラバ蟹ですかもう食べましたよ。”私がすぐ回答しました。この前、親戚からいただいたタラバ蟹は一杯約3キロありました。淡水の蟹を見慣れた私はそのタラバ蟹は世界で一番大きい蟹と思っていました。「違う、違う、僕が言ったかにはタラバより何倍も大きい、その蟹の名は高脚蟹です。高脚蟹の右脚から



左脚まで約2, 3メートルある。今店で売っているのはたいたい1. 5メートルあるよ。しかもいきたまうるって」と同僚はまたいいました。“なに、幅3メートルの蟹？何でも一番好きな私としては、なんだか気になります。家に帰ってネットで調べて見ると、いまはちょうど高脚蟹が旬であることが分かりました。高脚蟹は日本の太平洋側近海の深海で生存する世界で一番大きい蟹です。量は少ないため毎日水揚げする数はわずかしかない。そしてサイズは大きい、生きたまま運送、保存は難しいから日本で戸田港でしか生きた高脚蟹を食べられません。見ればみるほどますます好きになりました。さっそく同僚に予約してもらって、週末に行くことを決めました。



週末まで待って、やっと出発の日がきました。

同僚と私は朝8時に車に乗って静岡県沼津市戸田港に向かいました。車で約3時間走って、やっと港が見えました。閑静な海岸通りに青い海と空は一体になっていました、かもめは空でゆったりして飛んでいました。海の向こうをみわたすと白い帽子をかぶったような富士山がはっきり見え

ました。通りを渡った後 ネットで見た写真「吉」の看板と白い暖簾が目に入ってきました。ふるさとの簡素な感じの店構えでした。暖簾をくぐって中へ入ると和服姿のおかみさんが迎えてくれました。

「遠いところをよくお越しく下さいました。」

同僚はおかみさんの案内で店の2階に上がりました。私気になったのは店の水槽の中の蟹でした、いち早く水槽に近づいてのぞいてみると槽内に何十匹の蟹がぎっしり詰まっていました。一番上の大蟹ははさみのような前脚で私のめの前に“がっちゃん がっちゃん”と振り回しました”。

この店で提供される蟹は店主さんが毎朝港に出かけて行って、漁から帰ってきた漁師さんから仕入れてくるのだそうです。今店の水槽内の蟹はその朝揚げたばかりでした。サイズはだいたい1.5メートル、さっそく水槽のなかでもっとも大きいサイズの蟹を選んで、店主さんにまる蒸しにしてもらいました。30分待って、できあがった蟹は私たちの目のまえに届きました。あー大きい・・・やはり世界一の蟹、私は蟹の前の脚を捕まえて、同僚に写真を撮ってもらいました。



一口一口蟹の脚肉をゆっくりかみしめっていると、本場の蟹ならではの甘く、濃厚の秋の味でした。

帰りの車中、みんな秋の蟹を味わった満足感でいっぱいになりました。「来年またこよう」とにっこり笑って言いました。(戸塚教室・学習者)

## 「にほん」と「にっぽん」

朱 作政

みなさん、気付きましたか。私たちが住んでいるこの国の国名は実際に二つの読み方がありますー「にほん」と「にっぽん」です。日(ひ)と本(ほん)の漢字を書いて普通おおぜいの人は「にほん」と読んでいますが、実は「にっぽん」という読み方も間違いではありません。例えば、(ここで1000円札を出して見て下さい)この1000円札の正面に書いてある漢字(日本銀行)の読み方について、紙幣の裏側のローマ字を見ればすぐに分かりますー「にっぽんぎんこう」と書いてあります。もう一つに例をあげると、東京でにほんばし(日本橋)がありますが、大阪で同じ漢字の地名もあります。でも、大阪ではにっぽんばし(日本橋)と読んでいます。

一つの国名、二つの読み方、これは世界中でも珍しいです。一つの読み方に統一できないのでしょうか。

昔、日本の国名は「ヤマト」と読んだこともあります。日本は中国に東の方で、つまり、「日(ひ)の本(もと)」に位置することで。それで、日(ひ)の本(ほん)の漢字を組み合わせ、日本の国名になりました。これは日本の国名の由来の一つの説です。中国漢字の発音の影響で、「にほん」、「にっぽん」、「じっぽん」いろいろな発音がありました。その後、明治時代に入っても「にほん」と「にっぽん」が統一されなかったのです。1934年、当時の日本文部省は「にっぽん」に統一しようとする案もあったが、残念ながら不完全に終わりました。2009年、日本政府は「『にほん』、『にっぽん』という読み方について、いずれも広く通用しており、どちらか一方に統一する必要がない。」と決定しました。そのため、今日まで日本の国名の発音について、二つの読み方は続いています。これも日本の面白さの一面と思っています。

私たち外国人にとって、もっと日本の文化に興味を持ってこそ、もっと日本の面白さを見つけてこそ、日本語はだんだん、だんだん上達できると思っています。みなさん、一緒に日本の面白さをさがしませんか。以上です。よろしくお願いいたします。

(横浜教室・学習者)



## 読書感想文

夏 永艶



最近、「妈妈不适当超人」という中国語の本を読みました。タイトルは日本語で訳すと「母はウルトラマンじゃなくいい」です。作者は台湾で生まれ育ち、十三歳からアメリカで生活し始めた、今三人の子供の母です。子供の教育のため、仕事を辞めて、主婦として子供たちの教育に専念しました。しかし、主婦の仕事は簡単だと思いがちですが、実際、一年中休みがなく、心身とも疲れますが価値を見逃されやすく、自分が見つからない難しい仕事です。作者は、子供たちとの戦いの中で、無力感に襲われ、憂鬱の時期もありましたが、だんだん彼たちと一緒に成長する喜びを感じるようになりました。毎日、子供たちが寝た後文章を書き、三年後終に中国語で本の出版という夢は遂げました。私も主婦であり、母であり、作者の書いた悩みと喜びがよく分かるので、この本はとても親しく感じました。

私は日本に来てから、しばらくの間、書類などに「職業」の欄に何を書くのか悩みました。実際に、仕事がないので、主婦と書くべきですが、何となく恥ずかしく感じました。中国でちゃんと仕事をしていたのに、日本にいと、自分さえ養う能力がなくなると思ったら、とても心配になりました。でも時間が流れるにつれて、自分の過去の価値観の狭さにだんだん気づきました。主婦とし



て、母としての役目は誰も代わることのできない重要な仕事ということが分かりました。子供たちが幼い時、安定な精神状態、ゆとりのある生活をしたら、大人になって、いろんなストレスに強いと言われていました。最初仕様がなく(子供が小さい、日本語ができない、仕事が見つからない)家にいましたが、何時の間にか、主婦としての楽しさが分かり始めました。中国では勉強ばかりしていましたが、日本では生活の知識をたくさん身につけました。子供たちの世話をはじめ、料理、掃除、洗濯、買い物、家計管理など主婦として欠かせない仕事に追われた日々もありましたが、自分なりの工夫をして、規律のある生活に整えることができました。今ではパートタイムの仕事しながら、学校の役員と自治会の役員もやっています。毎日家事を早く終わらせて、子供たちと読書の時間も楽しんでます。この本の作者も書いていたように、子供たちの成長と共に、自分もいろんな面で成長しています。子供たちに正直、誠実、勤勉、勇敢などを教える前に親として言動を慎んで良い見本を示さないといけません。子供たちは親の鏡です。子供を責める時、親自身は問題がないかどうかもう一度考えないといけません。

母はウルトラマンじゃなくて良い——これは作者の主張です。母は完全な自己犠牲ではなく、子供に自分のできることをやらせて、責任感、自立心を育てます。常に家庭と自分の間のバランスを調整して、自分にも時間、空間を与えます。作者の行動で示

したように、子育てしながら、自分の夢も忘れずに、こつこつ努力していったら、必ず実現する日がやってきます。自分の過去を振り返って見ると、いらいら、くよくよしていた自分を変えたいと心強く思いました。将来のことばかりを心配するなら、寧ろ今現在のことをちゃんとした方が賢明だと思います。(横浜教室・学習者)

## 真心

廖 忠



先日地区センターで私達は料理研究会を行いました。研究といっても、実はやさしくおいしいものを作ろうということです。日本に長いと、とても郷土料理を食べたくて、家庭風味の料理が懐かしくなります。

私達の傍には料理の達人が多いようです。皆さんは普段その腕前をあまり出さないで、知る人が少ないようです。最近よく付き合っているので、お互いによくわかってきました。昨日孫さんという方に中国の家庭料理でよく作る焼餅を教えてもらいました。焼餅というのは小麦粉を使って焼いたものの一種です。

孫さんは北京出身で、ご主人はもと北京のあるホテルのシェフさんでした。料理はも

ちろんうまいです。孫さんも料理が上手です。とくに小麦粉を使ったスナック類が得意です。よく蒸しパンとか、肉まんとかを作って、ご馳走しています。孫さんは料理の腕がいいですけど、口コミでの評判はあまりよくないです。なぜかいうと、彼女は他人のうちを訪れることが好きですが、予告や挨拶なしで、直接に行くことが多いそうですから。その上、相手は用事があるかどうか、時間の都合がどうかを問わず扉をノックします。皆さんが反発しているけど、孫さんはあまり気にしません。いつもニコニコしていて、進んで話かけてきます。日本では人間関係が薄くて、お互いにつながりが少ないので、彼女の様な人間はかえて珍しいと思っています。慣れてきたら、皆さんはあまり言動を気にせず、普通の友達として付き合いします。

孫さんはもうすぐ五十歳になります。小学校に上がったばかりの子供がいます。ご主人は家庭のことに関心を持っていないようで、すべてのことを孫さんに任せています。来日は短くないけど、日本語のレベルは高くないようです。いざ何かがあったら、いつもやさしい人に頼んですませます。にもかかわらず、どこかへ遊びに行きたくなったら、迷わずにただちに行きます。先日京都で遊びたかったので、息子さんを連れて夜行バスで行きました。要するに、孫さんは私たちの中で特別な存在です。

会を開く前に、皆さんは積極的に参加しないことを恐れて、電子メールで呼びかけ

ました。皆さんは面子を立ててくれて、参加するとお返事しました。前日そのことを忘れないよう、またメールしました。結局、みなさんは本当に優しく、日曜日なのに、早めに地区センターに集まってくれました。

しかし一番感動されたのはやはり孫さんでした。九時に時間通りやってきて、おなべ、鍋の蓋、お箸、お砂糖、塩、麵棒、紙コップ、お茶、小麦粉などを持ってきました。孫さんの話によると、引越したようです。ついには、油を忘れて、急いでとりに行きたがりでしたが、私は直ちにやめさせました。外は風と雨が混じっていて、どのくらいで戻って来られるかまだわかりませんでしたので。私は電話して、主人に送ってくださいと頼みました。

私は孫さんの優しさと素直さを感じました。普段はよく学歴、職業、見た目とかで人を見ます。自分は少し日本語が話せるし、いい仕事をしているし、孫さんより少し上だと思っていますが、実はそうではありませんでした。孫さんは無為の心でやっていますから。

皆さん全員がそろったら、孫さんは教え始めました。最初は小麦粉を混ぜ、生地を作り、広げ、餅を焼くまでひとつひとつ丁寧に教えてくれました。やりながら皆さんは話を交わしました。その場にいる人は殆ど北方の人で麺類好きで、焼餅は手間がかからないし、おいしいし、作れる人多そうです。各自のやり方もいろいろありそうです。孫さんはきっと頭にきたでしょう。勉強してきたのに、よく聞きなさいよと思ったことでし

よう。話ながら、一枚一枚の焼餅はできあがりしました。出来は確かに違います。皮はかりかりして、中はやわらかくて、食べると香りが口に広がります。

彼女は自分が持ってきたお茶も入れてくれました。ジャスミン茶です。北方の人がよく飲んでいるお茶です。皆さんは小麦粉の餅を食べて、お茶を飲んで、しゃべります。時間がつつい過ぎました。孫さんの腕は確かです。特に胡麻入りの焼餅はとてもおいしいです。残念ながら、私あまり食べないうちに、すぐ皆さんに食べられてしまいました。

終わったら、まだ感動していました。孫さんの真心を感じていました。世の中に物事をやるのには何種類もあります。ある人は手と頭でやり、ある人は心でやります。結果は違うけど、心をこめてことをやる人に感動させられます。

孫さんは既に家族全員で帰国しました。時々孫さんのことを思い出すと、人間はやはり複雑で、一面だけで人を判断するのはよくないと思ってしまいます。道が遠ければ、馬の力がわかり、月日が経てば人の真心を知る。いろいろのことをたどれば、人の本心にたどり着きます。(横浜教室・学習者)



## 夏休みの旅行



李 艶紅

2010年6月末、私は日本に着いて最初の夏休みを迎えました。

中国で「携帯電話」という映画の放映を見て北海道の綺麗な風景が人々の心に残っています。私もその中の一人です。

夏休み初日、仲間と一緒に羽田空港から飛行機に乗って北海道へいきました。

札幌に着いた時はもう昼を過ぎていました。取りあえず、味の時計台というラーメン店で食事をしました。塩味と味噌味と醤油味といろいろな種類があります。どれがもっともおいしいかなと悩んだ最後に味噌ラーメンに決めました。

一口食べると、やっぱり有名な札幌ラーメンだと心から感激しました。

次の日、JR電車で海を眺めながら小樽に着きました。愈々第1日目の観光が始まりました。

初めてなのに懐かしい、古さと新しさが調和する街、小樽。

川に沿って観行客は、ゆっくり歩きながら、運河の美しさに見入りました。風が顔を拭いて、気持ちがとても良かったです。

運河の道側のライトは武士みたいに、運河を守ってる様でした。

小樽のもう1つの名物は硝子です。

中に入ると透き通る美しい硝子は私を童話の世界に導いてくれました。踊る鳥を触ったり、かわいい熊と写真を写したり、時間を忘れてしまうほど夢中になってしまいました。

三日目は、富良野に行きました。

富良野は小樽とは又違う風景で、彩色の海洋に潜ったみたいです。富良野というと、もちろんラベンダーが一番有名です。残念だったのはこの日午後から雨が降り出しました。でも、旅の興奮は 続いていました。

ファーム畑ではいろいろな花が咲いていました。ピンクがあり、黄色があり、紫があり……広い一面のラベンダーは、私にとってとても目が休まり大好きです。四季彩の丘は特に展望台に登ってみる事が出来 虹のような花は雨の中に盛んに咲いていました。私と友達も傘をさす事も出来なく、そんなきれいな風景を撮りまくりました。

富良野にいとラベンダー名付き商品がいっぱいあります。ラベンダーオイルを抽出して作られた精油は人気があります。ラベンダーアイスクリームは 私の好物になりました。

四日目は、知床半島に向かいました。

知床は世界遺産になり ここにはいろいろな希有植物や動物がいます。バスの窓口から外の海を眺め、かもめの姿が目に入りました。とりあえず、知床五湖の魅力を楽しみに行きました。湖を巡る遊歩道では身

近に自然に触れることが出来ます。連山が湖面に映され、水と共に揺れました。詩や画のような自然の恵みをもって、涼しい風も吹いて、気持ちは最高でした。歩きながら、いきなり、熊が出没するという看板を見付けました。今まで、自然の中で熊なんて見たことがないので、トキドキしたり、興奮したりして来ました。

五湖の遊覧を終わってから、観光船に乗って、知床岬、カムイワッカ湯の滝、乙女の涙など観光ポイントを回りました。

午後3時まで、知床の魅力に魅せられた私たちはJRに乗って次の観光地に出発しました。

最終日、摩周湖や硫黄山など楽しみました。バスが山の中を回り、摩周湖へ進みました。でも、この日は曇り、雨ですから、摩周湖の姿が見られませんでした。昔々から、運命に巡り合った二人で摩周湖の風景が見えるという物語りがあります。仕方なく、次の硫黄山へ行きました。硫黄山は名前通り硫黄がいっぱいあります。煙が上々に漂っていました。硫黄のにおいが鼻に入り込みました。何枚も写真を撮ってバスに戻りました。次は湯砂を楽しみに行きました。

あっという間に、五か間の北海道の旅行が円滑に終わりました。北海道のいい風景やおいしい食べ物が私の頭に深く残りました。最後、此の素晴らしい景色と別れたく無かったです、北海道、さようなら。

(横浜教室・学習者)



# 文化の絆

員琳蓉



およそ一世紀半前、欧州大陸の各国は、資本の発展と拡張を伴い、世界各地で新しい営みの源地と市場機会を探り始めた。太平洋に臨む横浜----漁業と造船業を主とする港町も、このような画期的な時代を乗り越えて開港の扉を開き、有名な日本の代表的な文明都市となった。文明の時代は現代化感を持つが、全ての現代化が文明ではない。けれども、横浜では人に平和と安静、癒しと楽しみを感じさせ、混乱と繁雑さは見られず、秩序がありながら協和的な特徴が多い。

横浜市内で初めて建設された駅――桜木町駅の付近では、ある境界線の川――大岡川が流れている。川の内側の地域は「関内」と呼ばれている。横浜港の付近の関内と言え、誰もが知っている繁栄した所である。ここはお金持ちの地域の山手駅まで遠くないし、商店が集まる元町と中華街までもとても近い。スポーツから、レジャー娯楽、買い物と文化の享受まで非常に便利である。「関内」とは、すなわち「関の中」で、「関」とは「扉の口」の意味である。まるで、中国古代のように万里の長城を「関所」にして、長城の南の地域は「関内」、北の少数民族が住む他郷は「関外」と呼んでいたのと同じようだ。従って、満族人は中原に襲ったことを「入関」と呼んでいた。時間を溯り長安が国の首都であった

時代では、長安の所在していた平野はずっと「関中平原」と呼ばれていた。「関内」の「関」という字がこのような意味があることを考えると、朗々と口から出てくるからだけの名前ではないことが分かる。横浜は関外という言い方はないけれど、関内から港の側まで歩いて行けるので、中華街、欧米各国の領事館の跡地や文化展示館があるようになった。

昔から今日まで、人が多く豊かな地に人を留めおけば、人は安易に暮らしてだんだん怠けてしまう。痩せこけた土地に人をおけば発奮して努力するようになる。福建は高山が多いが、閩南人(福建省南地域の人の意味)をアジア、ヨーロッパやアメリカ各地へ行く事を阻止できず、世界各地を生活拠点とする勇気を止めることができない。四川の道は天に登るよりも難しい(古代の詩文)、それでも四川人を全国各地、大通りや路地裏に根を下ろす精神を阻止できない。

日本の横浜市の中中華街――一つの中国伝統文明と食文化の集まる場所、それは横浜開港以来、中国閩南地区の華人(中国人と華僑のことを指す)の先祖が南洋に出かけることと同時に、アメリカの西海岸と日本の太平洋に臨む港町――横浜にたどり着き、この百年もの歴史を持つ市場の集まりを築き上げた。第二、三代以前からすでに多くの閩(福建省の別称)粵(広東省の別称)人と台湾人が住み始めている。と言うより、閩南人と呼ぶ方がよいだろう。正しく

指すことでもあるし、失礼にもならない。多くの台湾人の先祖や出身を調べると、閩南との関係がないと言える人は少ないからだ。

今日まで、この町では人が毎日往来し、笑い声があちこちから聞こえ、とてもにぎやかである。空の空気までもこのような影響で熱気で上昇するようだ。商売がいい店舗は当然のこと、名前が知られていない新しい小さい店も、休日では人が途切れぬ。広い道路はなく、縦横に交差した小さな道がある。並んで立つ高いビルはなく、一軒一軒繋いだ店舗がある。頭を上げれば、電線は空中で交差している。遠くを見れば、赤い門と緑の廊、伝統的な色と雰囲気、優雅な漢字での横物は主な風景だ。

中華街の小さな道を何気なく歩けば、耳に多く入るのはやはり日本語である。外見の若い化粧や、流行のファッションからは、相手は中国人かどうか簡単に判断できなくなっている。しかし、毎回の祭りで盛り上がる獅子舞、紅く染まった美味しそうなチャーシュー、酸味の効いた辛い刀削麺、艶のあるふっくらとした焼き栗は、いずれも中国感を感じさせる。中華街で一方を占める、早期に当地の華僑が共に投資して建設した「関帝廟」は、更に華人が皆必ず訪れる場所である。これは自分のルーツを探り、親族を懐かしみ、歴史と文化への熱い思いからかもしれない。関帝様と言え、中国人で知らない人はいない。それは三国時代の有名な歴史上の人物関羽である。彼の内心には狭い一面もあるが、やはり彼

の豪儀には及ばないため、中華子孫に非常に尊敬されている。華夏(中国に対してのもう一つの名称)各地には、名前さえ知られない小さな地方にも、極めて一般的な関帝廟が見られる。神化された関帝様は、最初の生活安全、吉祥如意を守る神から発展して、現代的な商売の隆盛、進学昇進などを守る神として信じられるようになった。中華街の関帝廟の外は、石の欄干と木材の柱、香りが漂い、屋根の角には縁起の良い竜が横たわっており、竜のひげが舞い上がっている。堂の中には明るい灯明が点けてあり、荘厳であり、関雲長(関羽の別名)の像が威厳を保ち堂の中央に立っており、茶色で落ち着いた顔、真っ黒で長いひげは人にその偉大さを感じさせる。賑やかに繁栄している町の中にこうした廟があり、疲れた人たちに身体の休養と心の癒しを与えてくれる。

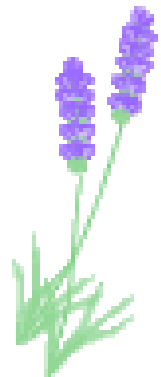
もう一つのよく知られている場所は、2006年に新設された「媽祖(まそ)廟」である。「媽祖」は粵語(広東省の方言)の発音から発展したもので、「母」の意味である。中国の東南沿海地域では、媽祖廟は珍しくない。媽祖は偉大な母を象徴する。彼女は毎日自分の子孫達の出航を見守っており、彼達の無事な帰りを願っている。閩粵沿海の各省は、昔から漁業を主として、海を頼りに食を得、海に対して深い感謝の気持ちを持っていながらも、恐れてもいる。マカオ海辺の山の上に、ある偉大な媽祖がそこで航海を見守っていて、静かに勇士達の帰りを待っている。横浜港前の中華街

も同じである。閩粵人がどこへ行っても、故郷への思いを持ち続けていて、未来への希望をどこまでも届かせている。何代目であろうとも、古今の議論をする時違いがだんだん大きくなっても、心の底のほんの少しの根強い文化理念を拭い去ることはできない。中国大陸にいる国民が文化に対する継承と発揚の程度とを比べると、海外に出た華人達はもっとそれを輝かせているようだ。それは金のように貴重に保存されていて、人々に羨やましがられ、敬い賞賛されている。

陝西省岐山県南渭水平原には多くの低い山が散らばっていて、当地の人に「塬」と呼ばれ、当時諸葛孔明が陝西に入る際、司馬懿と決戦した時ここに軍を置き、最後に、病気で亡くなった場所である。諸葛亮廟はこの一つの「五丈塬」の上に立っている。廟の中は壮大な氣勢で建てられており、神秘的な八卦風の楼閣、岳飛(中国宋の時代の将軍。)の手書きの孔明の「前後出師表」もその中に陳列されていて、人を遙か遠い三国時代に置かせ、この世を去った者だけがいてひっそりとした感じだ。廟の外は毎会のお祭りで賑やかであり、人が絶えない。塬の上も下も旗が沢山挿されており、いろいろな色がある。塬の下は短い一つの道なのに、其処にある岐山の冷やし麺類の名物である魅力的な黒酢の香り、ソースー麺、揚げ餅、豆腐汁の熱い湯気、乾菓の厚い餅の何時までも口に残る後口の良さに惹かれ、どうしても、貴方は其処で長い時間をつぶす事になるだろう。

水も洩らさないほどの混雑した情景は、此処からは程遠い神奈川県平塚市の七夕祭りよりも百倍以上賑やかだろう。当地の農民は岐山地方の癖がある陝西弁を話していて、陝西人として、多くの農家は乾いた田を耕している。伝説によると彼たちは諸葛亮と四川から陝西へ入り、最後に蜀国(古代四川省の呼び方)の兵士の子孫を残したのだという。栈道が破壊され、しかもこの地域では低い山があるにもかかわらず、広い肥沃な平原があるため、兵士の子孫達はここに残った。諸葛亮の忠誠心を記念するため、後輩の人たちは「諸葛亮廟」を造って、後の人々が代々ここを使って先祖に敬意をささげ、幸福と平和を祈願できるようにした。その時代から現在まで、諸葛亮廟は当地の商業を繁栄させる良い契機となり、依然として濃い歴史文化情緒にも囲まれている。

歴史を振り返ると、文化の伝播と変遷、発展と融合は、七大陸と四つの海洋を結び、そこに根をおろし、葉を芽生えさせ、成長、繁栄できたのは、まるでトナカイに乗ったサンタクロースが、クリスマス気分を世界の隅々まで持って行き、人々に違った文化の中で、平和を共に享受させようとしているようである。(横浜教室・学習者)



## ハムスターの物語

吉田千香

たとえば、誰かが「あなたの一番好きな動物はなにですか？」と聞いたら、私はすこしもまよわないで答えます。「犬！」・・・でも「飼った動物の中で、いちばん印象深いのはなに？」と聞いたら、じゃあ答えは「ハムスター」です。

あれは、蒸し暑い夏休みでした。私の気持ちもすっきりしなかった、その時、お母さんが突然ハムスターを連れて帰ってきて、私の気持ちを晴らしてくれた。かごの中の雪みたいに白い毛、赤い宝石みたいにきれいな目のハムスターを見て、すぐすきになった。そして、こころの中で絶対に可愛がること決めた。

最初の何日か、毎日ほとんど半分の時間をハムスターと過ごした。ハムスターはこわそうに私をみて、でもえさをあげると、すぐ喜んで私の側にきて、いっしょうけん命食べます。そんな時いつも「可愛い、可愛い、可愛くてたまらない！」と思った。

何日もたたないうちに、ハムスターのおなかがどんどん大きくなった事に気づいた。最初は食べすぎと思って、気にしなかった。ついに放っておけないくらい大きくなった。やっときづいた。私のハムスターは赤ちゃんができました！

びっくりしたし、うれしかった。おどろいたのは、赤ちゃんはいったいどこからきたのか。うれしい事は、赤ちゃんが生まれた後、ハ

ムスターに仲間ができる事。その日のよる、私はハムスターを部屋に連れていった。

ずっと、動物がどうやってこどもを産むか見たかった。めったにないチャンスだ！よるずっと見ていた。けれど、うまれそうな感じが全然ない。しかたがない、私は電気をかけて、寝ました。その時の私は、それがハムスターの最後の姿とは思わなかった。

次の日の朝、目がさめて、すぐハムスターを見た。けれども、私が見たのは、可愛い寝顔じゃなくて、いきをしていないハムスターだった。どうして、こんな事になったか分からない。ハムスターの寝相が悪いただけかもしれないと思って、さわった時、急にハムスターの体はちよっと動いた。私はびっくりしてハムスターを抱き上げた。ハムスターは力がなくて、やっぱり死んじゃった。

その時、もともとなんにもないかごの中になにかが動きました。よく見たら — 神様！これは、ハムスターのこどもたちじゃないの！生まれたんだ！

あとになって、私の部屋のクーラーが強すぎたと分かりました。最悪のは、私がハムスターを置いた場所は、クーラーの風が一番当たる所だった。



ハムスターはこどもを産んだあと、寒すぎて死んでしまったけど、自分の体で子供を守った。

それを知って、すくなくても、こどものいのちを守りたいと思った。でも、うまれたばかりのハムスターは弱すぎて、母も死んで、どうやってお世話したらいいか分からない。何日かたって、こどもたちも母の所にいってしまった。私は公園に埋めて、お墓を作ってあげた。

今でも、覚えてる。あの立派な可愛いハムスター。

雪みたいに白い毛、赤い宝石みたいにきれいな目……

(横浜教室・学習者)



## 日本に来て感想

石波

私は4年前に中国の大連から日本に来て夫と結婚しました。最初のころでは日本語もわからなくて周りの環境にも慣れなくていろいろな困ったことがありました。でも、しゅうとめがユッカの会を紹介してくれました。そこで日本語を習い始め、今でも続いています。

外国語を習う一番いい歳は10歳ごろ。

この歳で外国語を勉強するのは、やっぱり難しいです。日本語の聞き取りも発音も私にとっては難しいことですし、はっきり覚えていません。3年前に中国から来た娘は私より日本に来た時間は短いです、私よりはうまくできていて、日本で友達もできました。やっぱり若くていいなと思いました。だから、私は娘に負けたくない、頑張って日本語をうまくなりたいと思います。

私は今、毎週金曜日に先生の所で日本語の勉強をしています。そしてバイト先でも頑張っただけの人と話を交して、自分の日本語の能力を上げたいと思います。もし、誰かが日本語がうまくなる本を知ったら是非教えてください。

日本にいるこの数年間、つらいことはいっぱいありましたけど、楽しいことももちろんありました。特にユッカの会の活動です。毎年ちがうところでバス見学会があります。箱根で海賊船に乗って黒い玉子食べました。昨年は大宮の鉄道博物館も見学しました。今年は動物園に行きました。いろいろな珍しい動物を見ることができました。すごい経験でした。そして毎年バーベキューがありまして、参加費が安いです。いっぱい食べれます。友達を連れて家族と一緒に行く人がいっぱいいます。

ユッカの会のボランティアに感謝いたします。みなさんのおかげで、外国人がこんなにすばらしい環境で勉強することができました。私の発表は以上で終わります。ありがとうございました。(戸塚教室・学習者)



# 私が日本について 思うこと

ナオミ・イトス

私は ナオミ・イトスです。  
2年前にペルーから日本  
に来ました。そのときから、  
家族と一緒に横浜に住むようになりました。



はじめは、日本に住むことは難しかったです。理由の一番は、日本語がわからないことでした。誰かと話しても、何も分かりませんでした。次は、日本人の寝方です。日本では、皆さんが畳の上に寝ます。これは、ほとんどの外国人がなかなかできません。最後は、日本の人はたくさん働きますけれど、私は働くことは、あまり好きじゃありません。

でも、英語の先生の仕事を見つけてから、  
どんどん日本が好きになりました。それと同時  
に、私の生活は易しくなりました。日本語も  
少し話せるようになりました。畳の上に寝  
ることにもなれました。

日本には、良いことがたくさんあります。  
その中でも特に良いことが3つあります。

一番目は、安全です。日本は世界で一番安全な国だと思います。日本では、90%の人が正直です。ある時、姉がデパートで買ったばかりのハンドバッグを忘れてしまいました。姉は、誰かが盗ったと思いました。でも、次の日に、デパートに戻って尋ねたら、お店にありました。

また、こんなこともありました。母が銀行のカードを無くしてしまいました。一週間ぐらい母はとても心配しましたがけれど、ある日、交番から電話がありました。誰かがお母さんのカードを見つけてくれました。

二番目は、みんなが親切なことです。どこに行っても、みんな優しいです。道に迷った時には、いつも誰か助けてくれます。これは、私たちにとってとてもありがたいことです。

でも、一番親切なのはお店の店員さんです。どこのお店でも、どの店員さんも、いつも優しく親切にしてくれます。

三番目は、みんなが健康に気をつけていることです。だから、日本には健康に関するいろいろな品物があります。みんなが健康的な食べ物を食べるし、運動したり、ビタミンを飲んだりします。特に、女の人は、美しさと若さを保つために努力します。私も、美しい人になりたいので、毎日がんばっています！

この二年間で、私は日本の生活になれましたけれど、まだまだたくさんの素晴らしいことに気がついていないと思います。これからも、素晴らしいことをたくさん見つけたいと思っています。そうすれば、私の生活がもっと楽しくなると思います。

(横浜教室・学習者)



# 私は日本の伝統文化を学ぶ会の見学に参加した

友澤武夫

2011年12月8日木曜日、私は戸塚の男女共同参画センターで、茶道と簡単な正月飾りを作る「日本伝統文化」を学ぶ会に参加しました。

まずは鶴の箸袋の折り方を学びます。

鶴の箸袋の折り方は、私はかなり難しいと思いました。教室の黒板には分かり易く折り方の順番に折った見本の実物が貼り付けてあります。私はそのとおりの順番に見ながら考えながら折り続けて行きました。時々理解できない場合は、先生に教えてもらいます。折りまちがえた時は必ず開いて折り直します。このように繰り返しながら20分ほどでやっと鶴の箸袋が完成しました。その時私は跳びあがるほど大喜びでした。

その後は、日本伝統文化の茶道を学びます。私は説明書のとおりになりました。

まず、先生は仮に「亭主」として、私たちは仮に客として、部屋の内の壁のそばに正座になってお待ちします。その時先生から甘いお菓子をもらい食べました。それから「亭主」がお茶を客に差し上げます。

「亭主」はお客様に相伴いたします。客はお茶を受ける前、次の客に「お先に頂戴致します」と挨拶して受けます。客は両手で茶碗の向こうをつまみ90度まわして、一

口飲みます。つづいて「結構なお服かげんです」と右手をついて挨拶します。そして残りを飲み、最後は息を吸い込むようにすつと飲み切ります。飲み口は指で拭き、懐紙で指を拭きます。それから両手で茶碗の前を持ち90度戻して正面に置いて、茶碗を拝見します。

最後に「亭主」は笑顔で客に「如何ですか」と聞きました。私は「ちょっと苦いですが、美味しいですよ」と答えました。(横浜教室・学習者)

## ゆっくり横浜を歩きましょう

大石俊雄



2009年は横浜開港150周年、その翌年2010年11月にはエーペック(APEC)が横浜で開催され、全国をはじめ世界の人々が多く横浜の地にお越しいただきまして、横浜も活況をあげた。

然しながら、お見えいただいた方の多くは、海側のみなとみらい地区、赤レンガ倉庫、山下公園、山手、三溪園など桜木町から海側に集中し、反対の西区方面には、外国首脳のご夫人方が能楽堂を訪れたぐらいと聞いている。

西区は、臨海部にみなとみらい地区が広がり、開発が進む新しい街がある一方で、日本の開国、文明開化に深い関係を持つ場所として歴史をはぐくんできた地域。

そして西区には、三つの古道、すなわち、旧東海道、横浜道、保土ヶ谷道が三角形を広がるように通じている。その周辺には歴史や文化資源が数多く残っている地域である。横浜道は現在、道路上に「横浜道」の表示が数箇所にわたりきざまれている。



JR桜木町駅から日本ガス事業発祥の碑(本町小学校前)→掃部山公園・井伊掃部頭の銅像→金星太陽面観測記念碑→神奈川奉行所跡→左上方に伊勢山皇大神宮を拝し→横浜道→野毛山公園→横浜開港に尽力され門弟には、勝海舟、坂本竜馬、吉田松陰などを擁した佐久間象山顕彰碑→野毛山配水地(近代水道発祥地)パーマーの碑。

野毛山公園・動物園には、かつての豪商 原善三郎、茂木惣兵衛などの別荘地跡、さらに近くには獅子文六、有島三兄弟の家、さらに坂を下り、中区に入れば「瞼の母」で有名な長谷川伸、吉川英治などの

家もあったと言われている。



横浜開港に尽力された井伊掃部頭の銅像、佐久間象山の顕彰碑を思い浮かべるとこの地はかつて横浜港が一望できる高台にあって黒船の来航で幕を開けた近代日本の始まりは、横浜港から始まったと感じる場所である。

どうぞ皆さん、これから陽気が良くなったらゆっくり歩いて是非とも文明開化の痕跡を探ってみはいかがですか。(横浜教室・ボランティア)

## 2011年という年

中村明子



2011年という年は私たち夫婦にとってちょっとした記念すべき年でした。

夫が6月に七十七歳の喜寿を迎え、翌年の2月には私も共に喜寿の誕生日を迎えます。さらに7月には結婚五十周年の金婚式と重なりますのでこれは一つ

大いに祝ってもらおうと、正月早々二人の息子にそのことを告げました。二人は「そうか、それは目出度いね」と言いはしたもののそれっきり音沙汰なし。仕方がないからこちらから「どんなお祝いしてくれるの」と切り出すと「えっ、俺たちがやるの？お二人で外国旅行でもすればいいじゃない」との返事。「いいよ、費用はあなたたち持ちね」「そんなあ、優雅な年金生活者でしょ。旅行の手筈はしてあげるからそれで勘弁してよ」「じゃ、おれ空港まで送って、迎えにも行くよ」と全く罰当たりな反応しかありません。「あのね、世間様ではこういう祝い事は子供等がお膳立てして親に感謝を表すものよ」「でもそれって親から強要されるものかな」ここでもう切れた私は悔し紛れに「分かった、自分たちだけですっばらしいお祝いをしますから何もしてくれなくてもいいわ」と宣言してしまったのです。

まず、夫の喜寿の記念にはかねてから考えていた趣味で描きためた絵のささやかな個展をしよう会場を探し、予約をとって段取りをつけるまで夫には内緒で一人でことを運びました。初めは個展なんておこがましいと渋っていた夫もやっとその気になって、額縁を手作りしたり(これは予算の関係)飾る絵を選んだり、だんだん乗ってきたところである3月11日です。あの恐ろしい光景を目にして「喜寿だの個展だのと能天気なことを考えてはいけないのではないか」と思ってしまいました。しかし、なんでも

かんでも自粛、自粛のムードに少し疑問がわいてきて2、3の人に相談したらやったほうがいいと言われてまた元気が出ました。個展には、冷たいと思っていた息子たちも展示や片づけを手伝ってくれたり、お嫁さんたちは綺麗な花を贈ってくれたり、孫たちは賛助出品してくれたり、やはり家族みんなで盛り上げてくれたので、年甲斐もなく切れて啖呵を切ったことを後悔しました。

金婚式のほうは、足の手術以後海外に行く自信がなくなりましたので、国内旅行で済ませることにしてあちこち考えているうちに「しゃべり場」の夏休みも終わりに近づき、二泊三日の信州の美術館巡りの旅にしました。宿を探したり、コースを考えたり、旅は出かけるまでが楽しみの半分です。考えてみれば夫と二人で旅だけを目的として出かけるのは十何年ぶりでしょうか。長野には何回か行ったこともありゆっくりのんびりを心掛けて出かけたのですが、中央高速で思いがけず事故渋滞に巻き込まれ、諏訪湖畔でおしゃれなレストランでお昼を取る予定の時間には、はるか手前のサービスエリアでおにぎりをほおぼっていました。高速を下りてからもハプニングの連続でした。私たちの知っている道路状況は3~4年前のこと、おまけに人間ナビを務めるはずの私は持参した道路地図の字が小さくてまるで見えず「ちょっと待って、今探しているところ」を連発してわが身の老いを思い知らされました。二人で観光地なのに道路

標識が不親切だなどと愚痴をこぼしながらやっとなんと薄暗くなって目的のホテルに到着しました。

でも、ホテルはスイスの山小屋ふうで元宮様の別荘だったとか、優雅な雰囲気です。スタッフもスイスのコスチュームですっかりスイスに来た気分になりました。もちろん食事でも美味しく老人用？にライトのコースも用意されていて私でも残さずいただきました。ネットで探して当てた私も鼻高々。昔から「私企画する人、夫ついてくる人」の図式は50年たっても変わりません。

目的の美術館巡りは、二泊なので十分楽しめました。初日が時間が無くなり今回行けなかったところへは、まだ夫が車の運転ができるうちにまた行く楽しみを残して蓼科高原を後にしました。

2011年という年は日本中が絶対に忘れることの出来ない大変な年ではありましたが、その中で私にとってはもう一つ別の忘れがたい思い出の残る年でした。(横浜教室・ボランティア)

---

## 北海道の旅

水本みゆき

2011年の夏休み、我が家の一大イベントは2週間



の北海道旅行でした。

主人が勤続15周年で長い休みが取れた事、来年からは長女が中学生になり家族旅行も難しくなるだろう・・・という事で思い切って計画したものです。車にキャンプ道具を山盛りに積み込み、家族4人、そして我が家のアイドル、犬のナッツもいっしょに。

宿泊は、ペットOKの民宿やペンション、またはテントを張ってキャンプです。総走行距離は3700kmあまり！訪れたところをあげてみると、函館、羊蹄山、積丹半島、小樽、富良野、旭川、宗谷岬、知床自然公園、摩周湖・屈斜路湖、釧路湿原、厚岸、十勝帯広、札幌と、ほぼ北海道を一周しています。移動が多く、かなりの強行軍になりましたが、欲張っているいろいろな所に行き、きれいな景色をたくさん見て、美味しいものをたくさん食べて、温泉に入ってゆっくりして、大満足の旅行になりました。

次回、もしまた行く機会があれば、一箇所に長く滞在し、のんびりする旅も良いなあと思います。

行きは、陸路で北上し青森県大間からフェリーに乗り、函館に渡りました。

本州最北端の大間崎はマグロの一本釣りが有名。大間で食べた「マグロだけ丼」は赤身、中トロ、大トロがのった贅沢な丼で、トロもちろん美味しかったのですが、何といっても赤身の美味しさが抜群でした！今まで、マグロが好きではなかった娘は、大間のマグロのおかげで大好きになりました。





函館では、函館山の夜景と函館ラーメンを楽しみました。犬を連れていたので、函館山では外国の方に声をかけられたりもしました。タイ人だというその方も、お国で犬を飼っていて、お子さん3人はみな獣医さんなんだそうです。つたない英語でのやりとりでしたが、動物を愛する気持ちはどこの国でも変わらないんだなと暖かい気持ちになりました。



羊蹄山の近くでは、ガイドブックから何気なく選んだ農場直営のレストランが大正解でした。「じゃが太」という店名からもわかるように、こだわりのジャガイモを使った、さくさくホクホクのクロquetteが絶品でした。品種によってまったく味わいが違うことにも驚きました。ただひとつ、難点をあげるとすれば、お店が畑のど真ん中にあるので、あたり一面に強烈な肥料のにおいが漂っていたこ

とでしょうか。。。あまりのにおいに子供達は、涙目になっていました。

小樽では、古い石造りの倉庫が並ぶ運河のほつりを歩き、何十年も前の世界にタイムスリップしたような感じでのんびりした気持ちになりました。北一ガラス、洋菓子のルタオなど有名なお店もたくさんあり、ショッピング、食べ歩きも楽しかったです。小樽の庶民派グルメ「パンロール」にはびっくりしました。かまぼこを薄切り食パンで包み油で揚げたもので、小樽の老舗のかまぼこやさんが考案したものだそうです。私たちは、それをさらに食パンで挟んだ「パ



ンロールパン」を食べました。

富良野・美瑛の花畑は、本当に絵本の世界に入ったようでした。ファーム富田、ぜうすの丘など大規模で有名な農場はもちろんです。名前の無い普通の景色もとてもかわいらしくきれいで、見ただけで優

しい気持ちになります。

富良野のキャンプ場では、キャンプ場の羊たちが朝ごはんを食べにテントのすぐそばまでやってきました。



私達が食事をしているすぐそばまで平気で寄ってきます。人にもなれているし、犬も全く怖がらないので、反対にナッツが怖がって隠れていたのには笑ってしまいました。我が家の犬は牧羊犬にはなれそうもありません。ウサギもたくさん飼っていて、子供達は毎朝ウサギ小屋に入りびたり、一生懸命子ウサギにえさをあげていました。

北海道の北の端、宗谷岬に行くのも今回の旅の大きな目的の一つでした。宗谷岬は真夏なのに肌寒いくらいの気候でした。冬はさぞ寒いのだろうと思ったのですが、現地の方の話では年々暖かくなっていて、もう何十年も真冬になっても流氷が接岸することがなくなっているとのことでした。それでも、氷点下20度以上。横浜では考えられない寒さです。

ホタテ貝が有名だという「さるふつ」という場所を通った時には、横浜ではおなじみ

の「崎陽軒」の看板を見つけました。なんと崎陽軒のシューマイに使われているホタテはここから出荷されているんだそうです。北海道と横浜がこんなところでつながっていたなんて。。。道の駅で食べた焼きホタテ、ジューシーでやわらかくてとても美味しかったです。

北海道の景色でなんとといっても、一番印象に残っているのは、知床の大自然です。世界自然遺産にも登録されている知床半島。知床五湖をめぐる遊歩道を歩いていたらくさんの鹿に出会うことができました。



私達は出会いませんでしたが、ヒグマが出ることもあるそ

うで、遊歩道に入るときには、ヒグマに会わないためにどうするか、出たら対処するかななどの講義を受けなければいけません。

私がとても楽しみにしていた「天に続く道」にも行くことができました。知床半島近くの斜里町を走る農道で、25km以上もまっすぐな道が続いています。本当に空まで上っていけそうな気がしました。

釧路湿原も素敵でした。見渡す限り広が



る湿原、蛇行してゆっくり流れる川。湿原を走る「ノロッコ号」という観光列車でも犬連



れの外国の方とお話をしました。わんちゃんもいっしょにフランスから

来ていて、自転車で北海道を旅しているとのことでした。我が家と同じで犬も家族



の一員なんですね。湿原に沈む夕日は雄大でため息が出るほどきれいでした。

霧の摩周湖では、一瞬霧が晴れ、コバルトブルーの湖面を見ることが出来ました。深い青色と、日があった部分のエメラルドグリーンがとてもきれいで神秘的でした。

子供達は、屈斜路湖の湖畔の「砂湯」が一番楽しかったようです。湖の水は、普通につめたいのですが、湖のほとりの砂を掘ると、なかから温泉がわいてくる不思議なところ。一生懸命掘って、なんとか二人が入れる足湯を作り上げました。

主人は、積丹半島、宗谷岬、知床、札幌と大好きなウニを食べ続けていました。この旅で一生分のウニを食べつくしたのではないのでしょうか？牡蠣も大好きなので、釧路からわざわざ厚岸(牡蠣がとても有名ですね)まで足を伸ばして食べに行きました。

お魚やカニも、どこで食べてもとても美味

しく、私も子供達もいったい何杯海鮮丼を食べたことでしょうか。最後に札幌の市場で海鮮丼を食べたときは、これで北海道の美味とお別れかとさびしくなったほどです。

帰りのフェリーは、19時間の長い船旅でした。ナッツは、ペットルームに預けたのですが、自分のクレート(檻)の中でおとなしく待っていてくれ、船酔いも無かったようでとても助かりました。人間はみんな船酔いで苦勞しましたが、薬を飲んだり、ゆっくり眠ったりして何とかすごすことが出来ました。船には、広いお風呂や売店もあり、船酔いさえなかったら、のんびり優雅に過ごすことができると思います。



楽しかった、美味しかった思い出ばかり。長い旅の間、家族が誰も体調を崩すことなくいられたのは本当にありがたかったです。唯一残念なのは、富良野で天気にも恵まれず、星空も夕焼けも見られなかったことでしょうか。絶対にもう一度行って、満天の星空を見上げたいと思います。(戸塚教室・ボランティア)

## 聖書と私

宮入靖夫



今から4年以上前になるだろうか、友人と話している中でびっくりするようなことがあった。たとえ自分が輸血を必要とするような事故や病気に見舞われても、決して輸血を受けないとその友人が言うのだ。なぜ？ それで死んでしまってもいいの？ と訊くと、聖書にそう書いてあるからいいのだと言う。その友人は当時、キリスト教を名乗るある宗教団体の家庭訪問講義を受けていて、聖書を学ぶことで心身の苦しみから救われていると話していた。

インターネットで調べてみると、確かに同じ宗教団体信者で、輸血を拒否したがために死んでしまったという記事が幾つか出ていた。当時友人は不眠、血管障害などで頻繁に病院通いをしていた。そんな弱々しい、しかし大切な友人をもしものときに輸血拒否で死なせるようなことがあってはならないと、現代医学の恩恵をとнаえていろいろ説得してみた。だが、友人の話にはいつも聖書の話が出てきて、それまで聖書など読んだこともなかった私には、友人が聖書の言葉を引いて話すことがさっぱり理解できず、従って説得力ある反論ができなかった。

そこで、友人を邪教(と私には思えた)信仰から救わなければ、と私も遅ればせながら聖書を勉強することを思い立った。キリストチャンである次女に、聖書について勉強で

きる教会はどこがいいかと相談したら、私の住む団地の隣にあるY教会がいいと勧められた。当時は既にこの団地に30年以上住んでいたの、そこに教会があることは知っていたが、まさか自分がその門を叩くことになろうとは思ったこともなかった。さっそくY教会を訪ね、キリスト教とは関係ない者でも聖書を勉強させてもらえるか尋ねたら、F牧師が快く許可してくれた。

それから毎週水曜日、私はY教会の聖書研究会へ通って勉強をするようになった。その頃、研究会では新約聖書の中の「マルコによる福音書」を勉強していて、出席者はF牧師のほかに男女のクリスチャンが5、6人だった。勉強の方法は、まず全員が聖書を1節(大体が2、3行の短い文)ずつ輪読し、区切りのいい節のところで牧師が止め、1節ずつその内容について全員に問いかける形をとっていた。

例えば、「人々は屋根を外して病人をイエスの前につり下ろした」という箇所では、なぜ屋根からつり下ろしたのかと牧師は問いかけた。それに対して私たちは、イエスの周りは教えを乞う人たちがいっぱい近づけなかったのだろうか、当時のイスラエルでは家屋の造りが屋根を簡単に取り外せるようになっていたのだろうか、皮膚病を病む病人は人々に忌み嫌われていたから、イエスに会うにはそれしか方法がなかったのだろうか、思い思いに意見を述べた。牧師はそれぞれの意見に対して決して否



定せず、いつもにこやかに頷いてくれるので、聖書のことなど何も知らない私でも思いつくままに解釈を述べることができ嬉しかった。それだけに聖書のページはなかなか先に進まず、一つの福音書を終えるまでに何か月もかかった。しかし、まさに異次元に足を踏み入れたような思いがする勉強会が楽しくて、私はほとんど毎週休むことなく出席した。

勉強を始めた頃は、イエスが婚礼の席で水をぶどう酒に変えたり、弟子たちの見ているところで湖の上を歩いたり、死んだ人を生き返らせたりする記述にいちいち引っかかっていたが、そのうち全く気にならなくなった。世の中に不思議なことはいくらでもあるし、ましてやイエスキリストともなれば、いくつも奇跡を行って当たり前だろうと思うようになったのだ。こうして教会での私の聖書勉強は、新約聖書の「マルコによる福音書」「ルカによる福音書」「使徒行伝」「ガラテヤ人への手紙」と4年近くかかって進んだ。

ところが、である。今年の夏から旧約聖書の「創世記」を勉強するようになって、私ははたと困ってしまった。その第1章はこう始まるのだ。

『はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。神は『光あれ』と言われた。すると光があった。神はその光を見て、良しとされた。神は

その光とやみとを分けられた。神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第一日である。』

そのあとに続く記述を要約すると、二日目に神は天を造られ、三日目に地を造られてそれを陸と海に分けられた。さらに神は地に草と木を造られた。四日目に神は昼と夜を分けて太陽、月、星を造られ、五日目に魚、鳥を造られた。六日目になって神は地上の動物や昆虫、爬虫類を造られ、そしてとうとう最後に人を造られた。アダムとイブである。

たった6日間で神が天地とすべての生き物、宇宙まで造ってしまう、という考え方(これを創造論という)には壮大なロマンがある。感動さえする。しかし、海中の単細胞生物が何億年もかかって魚、両棲類、サル、ヒトへと進化したのだと教わった記憶がある身には、にわかに創造論に鞍替えすることができなかった。物語として聖書を読めばいいという考えもあるが、それまで真面目に聖書を学んできたことを思えば、そのときも自分なりに納得できるものがほしかった。

ローマ法王が近年になって、進化論を否定しないと述べたのをどこかで読んだ覚えがある。そこで、どのように考えれば創世記と進化論はキリスト教世界で矛盾しないのか牧師に質問したかったが、教会ではアウトサイ





ダーの私のような質問をすることがはばかられた。そこでネットで調べてみたら、どうやら進化論にしてもその仮説や推定がすべて証明されたわけでもないことを知った。バイブルベルトと呼ばれるアメリカ中部の一部の州では、いまでも進化論を公立校で教えることを法律で禁じているらしい。私の中の進化論も大分ぐらついてきた。

教会で一緒に勉強しているクリスチャンたちは、ヒトがサルから変異したなどと考えるより、神さまが造って下さったと信じる方がどれほど幸せかと微笑む。それを聞いて、これだと思った。神が天地のすべてを造られたということを知る人たちと一緒に聖書を勉強しているのだから、私も彼らと同じように聖書を読めばいいのだと。というわけで、私は聖書研究会の場では、頭の隅から進化論を追い出してしまった。

それからというもの、「創世記」学習は俄然楽しいものになった。第3章のアダムとイブが禁断の木の実を食べてエデンの園を追放される話、第4章は人類最初の殺人事件といわれるカインがアベルを殺してしまう話、第6-7章ではノアの箱船に乗ったノアの家族と選ばれた動植物以外は洪水ですべて滅ぼされる話、どれも大スペクタクルを観ているような思いで勉強した。この文章を書いている今は創世記の第14章を学んでいるところで、そこではユダヤ教、キリスト教、イスラム教がそれぞれ“信仰の父”と仰いでいるアブラハムが、神から約束さ

れたカナンで活躍しているところである。

私をして聖書の勉強をしようという気にさせたあの友人はその後どうなったかという、当時は五指に余るほど心身に問題を抱えていたのが、この4年ばかりの間はかなり改善されたようだ。聖書の勉強に関してか、家庭訪問講義を断り、今では立場が変わって、私から聖書について話を聞くようになった。それどころか、最近では私と同じ教会の聖書研究会へ通うようになっている。友人にはっきりと聞いたわけではないが、必要なときに輸血を受けるのは自然なこと、と考えるようになったはずだ。私にしてみればミイラ取りがミイラになった気がしないでもないが、きっときれいなミイラになったのだと思うようにしている。

最後に、これだけ長いこと聖書の勉強をしてきたのだから、私がクリスチャンになったか、というと然にあらざる。聖書には『あなたがわたしを選ぶのではない。わたしがあなたを選ぶのだ』というイエスキリストの言葉がある。私はどうやらイエスさまから見離されているらしく、なかなかお呼びがかからない。以前はときどき洗礼を受けるよう誘ってくれた聖書研究会の人たちも、今ではすっかり諦めたようだ。

聖書の勉強を楽しみ、教会のいいとこ取りをしている身を申し訳なく思いつつ、そんな私を周囲が許してくれる限り、これからも毎週水曜日の教会通いを続けるつもりである。(戸塚教室・ボランティア)

# キャンプ地

## 長野県について



波多野重信

2011年8月のユッカの会キャンプ予定地であった、長野県伊那市高遠にある宿泊施設や見学場所の下見のために、諏訪湖や清里高原などへ行きました。当然地図を見る事が多く、あらためていくつか学び知ることができました。

まず本州全体の日本地図を見てみると、長野県はほぼ中央にあり、周囲をぐるっと8県に囲まれた内陸県であることが分かります。日本で一番隣接する県が多いということです。

埼玉県ともわずかに接しています、日本航空機墜落場所の御巢鷹山は群馬県ですが、3県の県境近くです。松本から安曇野を通るJR大糸線での最北端駅北小谷から新潟県糸魚川駅、つまり日本海までは約30kmです。大糸線に沿っている道は、山々に囲まれた国のいわゆる「塩の道」です。

面積も大きく日本では4番目であり、東京、神奈川、埼玉、千葉の合計面積に近く、人口は約214万人と知ると、なんだか首都圏の過密ぶりがより歴然としてくるのに気付かされます。地図表現では中央高地、中部山岳と呼ばれていて、色分けでは

県全体が濃淡のある茶色が多いです。関東平野のほぼ海岸ぞいにある横浜駅から中央高速で向かうと、山梨県甲府市に入り右手に八ヶ岳が、左手には日本で二番目の高さ北岳3,192mのある赤石山脈が見えてきます。これらの山々の稜線が山梨、静岡県境になっています。その他、日本の屋根と言われるだけあり飛騨、木曾山脈、上信越火山群などの2~3千m級の山々に囲まれています。登山やスキーに興味のない人でも、北、南アルプス、上高地、浅間山、軽井沢などの地名は知っていますし、1998年には冬季長野オリンピックが行われたのはまだ記憶に残っています。

私たちのキャンプ地施設は、人里離れた山林を切り開いた谷間の1,218mの高さにありました。8月の夜に毛布と掛け布団一枚で熟睡でした。施設側で設けている活動の一つに、日の出を見るコースがありました。もちろん朝早く起き、全員で30分ほど、もっと上に山道を登りました。陽は八ヶ岳連山の向こうから出てくるという位置関係でしたが、雲がかかりよく見る事が出来



ませんでした。

ところで、日本全県に、多分あるであろう各県歌がどのように親しまれ、歌われているのかは分かりません。たとえば、神奈川県歌を知っている人は少ないでしょう。それらに比べると、長野県歌は県民に愛され、県外の人にも知られている数少ない例でしょう。

1900年に作詞されずっと歌われてきて、1968年に長野県民歌に指定された「信濃の国」の歌詞は6番までありますが、長野県の人々に親しまれて来た理由がよく分かります。

信濃の国は十州に 境連ぬる国にして  
聳ゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し  
松本伊那佐久善光寺 四つの平は肥沃の地  
海こそなけれ物さわに万ず足らわぬ事ぞなき  
四方に聳ゆる山々は 御岳乗鞍駒ヶ岳  
浅間は殊に活火山 いずれも国の鎮めなり  
流れ淀まずゆく水は 北に犀川千曲川  
南に木曾川天竜川これまた国の固めなり  
人は生活していくためにより住みやすい  
場所を選んで来たわけですから、高地に降った雨や雪が川となり湖となり作った平地や盆地、又は、平野に町ができ、それらをつなぐために、川に沿って鉄道が敷設されました。信越線、飯山線、大糸線、飯田線、中央本線、小海線などです。小海線野辺山駅付近にJR最高地点の碑1346

mがあります。

私たちが昼食を取った諏訪湖は伊那盆地につながる諏訪盆地にあります。日本一高い盆地で海拔760m、周囲16kmあります。東北大震災で学んだ断層、大地のずれ、そこにできた断層湖で、湖畔は温泉地としても有名です。間欠泉があるのを思い出し見に行きましたが、かつては50mの高さまで自噴していたそうですが、今では止まった状態です。中央本線上諏訪駅近くの通りを歩いていると、家々の玄関わきに水道があり聞いてみますと、温泉が出ることにはびっくりしました。

諏訪湖の岡谷市側にある水門から水が勢いよく流れ出ていました。案内板に天竜川の源流と書かれてありました。遠く静岡県浜松市と磐田市の間で遠州灘に注いでいる川、鉄道マニアに人気のある飯田線沿いを760mの高さから暴れるようにして下って行く「暴れ天龍」です。

もう一つ、湖岸から歩いて15分ほどの所に高島城があります。現存している城郭は小さいですが、堀に架けられた橋や、復元された天守、櫓、門などが面影を残しています。

この城が、諏訪湖に突き出した水城で「諏訪の浮城」と呼ばれていたという説明を読むと、山と澄んだ湖面に映る城と、どんなにか美しい風景であったことでしょう。

今年の冬は寒いですが、諏訪湖に御神渡りは出来るのでしょうか。(横浜教室・ボラン

ティア)

## 2011年8月 『長野県伊那市高遠』 キャンプ感想まとめ

波多野重信

### 参加者内訳

小学生2名。中学生6名。

高校生8名。その他16名。

ユッカの会ボランティア4名。

### 1)目標「友達になろう！ すすんで行動しよう！ 協力しよう！」

\*これらの目標についてあなたはどうか？

・やがすすいじなどで協力してできた。いろんな人と友だちになれた。・友達になれたし、カレー作りの時にすすんで行動できたし協力できた。・今年新しく入ってきた人もすぐに仲良くなれたし、カレー作りの時も班の人たちと協力できました。・友達になろうというのは、このキャンプで一番意識していました。みんな優しくたくさん友達ができたので、うれしかったです。すすんで行動することはできませんでしたが、協力はできたと思います。・目標とか意識していませんでしたが、同世代の子が少なかったので、友達になろうと進んで行動できたと思います。・最初はなかなか班の中で話せなかったけど、だんだんなれて仲良くなれた。目標は上手く達成できた。・友達たくさんできました。すすんで行動したり協力はで

きませんでした。目標を全く意識していませんでした。・話しかける努力をした。・友達ができただどうか分からないけど楽しく遊んだ。・正直はじめ、すごく不安でチームワークよくできるか心配でした。でも、チームのみんなが自分から進んで話してくれたので、レクや体育大会などみんなで全員が楽しむことができたと思っています。・班の人とはよく話したが、班以外の人とはそうでなかった。・リーダーとしては班員のみんなが協力してくれて、あまり苦勞することなく活動できました。・もっと呼び掛けてグループとしての結束力を強めればよかったと思います。・私はできなかった気がする。・コミュニケーションが取れました。昨年より積極的に取り組むことができたので、よかったです。・小中高生とは皆なかよくなれた。リーダーやボランティアとはあまり話せなかったのが心残りです。・まだまだたりないと思いました。私が。・自分から積極的に話しかけたり、他の人の話を真剣に聞いたりしたいと思います。・自分たちが企画したイベント以外に、荷物運びや子どもたちの面倒をみることができました。



## 2)活動の内容はどうでしたか。

### \*どの活動がよかったですか。

・スポーツ大会。宝さがし。・全部良かった。きもだめしが一番たのしかった。・スポーツ大会で班の人たちが協力し合えたと思います。・全部良かったです。星の観察の帰り道は怖かったけど、嘘で良かったです。特に、キャンドルファイアーがすごく楽しかったです。・山登り。・基本的に全部楽しかったです。でもとくに体育大会で班の全員が一番協力できた瞬間でした。・スポーツ大会、個人的にめっちゃ楽しかった。・スポーツ大会は、知らない人とでもいっしょにできるからです。・山登りは大変だったが達成感があった。・イベント的には全体的によかったと思います。今年初のご来光を見に行く企画はまさかここまで成功するとは思わなかったです。そういう意味で大成功でした。・スタンプ、前回の反省を生かし、全員でもりあがっていた気がする。・キャンドルファイアー(歌詞があいまいなせいか、歌う人が少なかった。歌詞カードを作るべきだった。)  
・スポーツ大会、スタンプ。みんなで協力して話し合いをしたり、練習していて、仲がすごく良くなったのでよかったです。

### \*よくなかった活動

ナイトハイク。きもだめしが超苦手だったので、ちょっと自分的にはよくなかったです。・朝の山登り。(すごく疲れたから。)  
・宝さがし。・とくにない。ボランティアの皆さんが頑張ってくれた活動なので全部たのしかったです。・朝のハイキングは太陽

が見れてよかったけど虫がヤバかった。・しいていうなら、二日目の活動が激しかったのでもうちょっとペースがあるといいと思います。・少し集まりの遅いところがあった。・企画に関してはなにもありません。・ホラーに関して。・スイカ割りの段取りが悪かった気がします。・つどいの時に遅刻する人がいたので次はないようにしたいです。



### \*他にしてみたい活動

・スポーツ大会の種目を変えたい。毎年作るのはカレーだから変えたい。・花火大会。しゃべり場。・特にない。今年の活動では初めてばかりだったので、なにより班のみんなが楽しんでくれたから、気持はもう満たされています。・山登り。・ちょっと本格的な山登り。・今ふと思いつくものはないですが、来年も今回よりもよくしていきたいと思います。・調べ物学習とかもあり。・海水浴。

## 3)自分の行動、責任についてはどうでしたか。

### \*良かったところ

・シーツをきれいに敷いたり、布団をたたんだ。特にないです。・やるべきことをやっと思っています。・スタンプでいろいろな意見を



出したこと。・責任とかあまり気にしませんでした。・部屋を大切に使ったところ。・しおりを見ながら次の行動を準備することができました。・集合する時はすぐに集合した。・一日目の問題点:班のみんなを集める。ボランティアの人も、みんなが楽しめる活動にする。この点を、2, 3日目で達成できたことです。・2日目は班の人をよくまとめられた。・班の点呼が早めにできて、班員とよく話して仲良くなれて良かった。・1日目に怒られたので2日目は、5分前行動を心がけたり、ちゃんと声をだしてよびこみしたりしたところだと思います。・活動の時間に気をつけた。・前回以前に比べて、司会者としては、詰まったりしないのでできたと思います。次回は、もっとうまく喋れるようにしたいです。・班の中でなごやかな空気ができた気がする。・責任を持って作業を行いました。・周りに声をかけて、次の活動に向けて、早めの行動をすることができるようにできたので良かったです。・一生懸命バスのネタを考えてきた。・年下の子たちとも仲良くなれたこと。皆さんと同じように行動し、先生やリーダーが話したように行動できたと思います。・周りを見るようにして気がついたことは、注意したり、促すことができた。

#### **\*あまりよくなかったところ**

・私が暗い所で鬼ごっこをやろうと言ったから中山先生がころんでしまった。・特にはないです。・きもだめしで、ギャーギャーいった。・すすんで行動できなかった。・カレー作りを真面目に責任をもって活動しなかつ

た。・スタンプが微妙だったところ。ちゃんとグループで案を出し合うことができなかった。・スタンプの話し合いに参加しなかった。時間にルーズなところがありました。・行きのバスの中で話すぎた。・リーダーの方にたよってばかりいた。・ミスはしていない自信があります。宝さがしで道に迷ったことやレクの最後参加者全員をしっかりと集められなかったこと。・1日目からもっとしっかりするべきだった。・清掃リーダーになったにもかかわらず、朝食前の所々のチェックをして、食事後部屋に戻らないで、退所を待ってしまって、ボランティアに迷惑をかけてしまいました。すみません。・グループをうまくまとめられなかったところ。・まわりとあまり関わらなかった。・責任感がないところ。・まとめるのが、リーダーにまかせきりになったことが少し心残りです。・体調管理。・スケジュールを把握できていなかった。・二日目の夕べのつどいに遅れてしまったことが残念でした。・時間厳守。・友達との話に夢中になってリーダーの話を聞くのを忘れたこと。・ボランティアチーム。

#### **4)あなたの生活班の活動はどうでしたか。**

##### **\*よかったところ**

・準備を早めにやった。・遅れないために5分前行動に心がけた。・協力できた。・みんなと話して仲良くなった。・点呼がよくできたところ。・2日目の朝の掃除は全然やらなかったけど、最終日はみんなと協力できた。・すぐに寝られたことです。途中で起きたけど。・みんなと協力してスタンプをやり

ました。・リーダーがとてもしっかりしていて集合が早かったです。・集まって座るのが一番早かった。・カレーを作った後からレクを決めたり、みんなが自分が言う前に察してくれたところなどがんばってくれました。・レクに積極的に参加してくれた。・スタuntsでは、みんな意欲的に計画をたててくれた。・活動にちゃんと参加してくれたところです。・ほとんどまとまって行動できた。・リーダーがとてもしっかりと責任感があるところ。・みんなと一緒に行動して、みんなのためにいろいろ考えた。・スポーツ大会で一位をとったこと。そして、リーダーがとてもしっかりしていたこと。・小中学生の就寝管理。



#### \* うまくいかなかったところ

・たまにバラバラになった。自分勝手になった、後半あたり。・スタuntsの練習が少なかった。・時々意見が噛み合わなかったところ。・班が7人で3分割にわかれてしまった。・あんまりなかったです。・積極的じゃなかったところ。夜に寝ていた人もいたのに騒がしくしてしまいました。・宝さがし。・人数が少なすぎた。・ボランティアがいなくなることが多かった。・スタuntsの役割をうまく決められなかった。・ちゃんと集まってくれ

なかったところです。・集まりが早いときと遅いときの差が激しい。・個人になると、うろろしたりすることが目立ちました。・時間通りの行動。・スタuntsの練習でもめあった。・人が足りなかったこと。・班のメンバーがそんなにコミュニケーションをとっていなかったこと。・スケジュール管理。

#### 5) 全体的に何でも、気がついたこと

・初めてで、楽しかった。・みんなで協力するとすごく楽しかった。・もっとみんなと過ごしたいなあと思いました。ボランティアさんたちに全部まかせっきりでした、ありがとうございます。・ボランティアの中はバラバラで一つになってないこと。やっぱりコミュニケーションが足りないかな。・今年もすごく楽しかったです。・朝起きるのが早すぎて眠いです。山に登るのがこわかったです。・今年は新人のボランティアの人がいて困ることがあったけど3年間で一番参加者全員が楽しめて安全にできたと思います。・宿舎では朝晩寒いくらい涼しくて快適でした。

・ちゃんと集まってくれなかったところです。・ボランティアとして参加していて、いろいろやらなければいけないことがあったのにぜんぜんやらなかったことに反省しています。・今回は、前回以上に若手ボランティアがメインだったので、来年は若手が乗っているいきおいでがんばりたいと思います。・今回の自分を認めること。・集会の時になかなかすぐに集まることができなかった。・ボランティアとしてゲームなど企画して

きましたが、当日になると段取りが悪かったりしたのは申し訳ないと思いました。前年のバスの中の反省点を、行きはクリアしたが、帰りは、また映画だけになったのは、反省点が生かせなくて残念でした。・スタントの準備時間が少ない。年齢層が上がってきて、子どもの割合が少なくなっているか？説明会の出席率も低くて、結局バス内でもう一度話さないといけな。・バスの中で音楽とか放送してほしいです。自由時間をもっともらいたいです。

#### 6) ボランティア、リーダーの皆さんご苦労さんでした。感想を一言！

・3日間とても楽しく過ごせました。ありがとうございました。・スタントGENIEおもしろかったです。・とても大変でしたけど楽しかったです。・企画とかタイムキーパーの方とかすごくしっかりとこの会を運営されていてすごいなと思って言いました。・リーダーがここまでスムーズに事を進めれるとは思わなかった。ボランティアの皆さんも陰で事前

のチェックをしたり、全体の進行をしてくれてありがとうございました。・個人的にはすごく楽しかった。朝が思ったより楽しかった。・おつかれさまです！！来年はボランティアとしてお願いします。とっても楽しい3日間だったので、また来年も行きたいです。・今回はうまくいったと言ってくれる人がいるので、評価は高いと思う。子どもたちもそう思っていると信じています。・今回のキャンプは反省点が多かったが、楽しかったです。取り組みがすべてうまくいったので、楽しませることができたと思います。・リーダーへ、昨年以上に班の集合が早かったし、進んで呼びかけたり、小さい子への配慮をしてくれてありがとうございました。・今年はとても順調にいったと思います。すばやく行動できたと思います。最後のキャンプなので、楽しむことができた。

#### 7) 来年もキャンプに参加したいですか。

したい:18 したくない:2 わからない:9



# 寒中お見舞い

## 申し上げます



中和子

新しい年を皆様いかがお過ごしでしょうか。

2011年3月11日、一瞬にして全てのものが失われることを「たより」22号を編集していたあの時期だれが想像できたでしょうか。

被災地からの様々な発信は阪神淡路大震災からの復興と重ね合わせ本来人と社会がどうあるべきかの問いを投げかけ続けているのではと私は受け止めています。

気負わず、できることを継続することで、気持ちを奮い立たせ、例年の通り1月6日補習教室の「面接練習」でユッカの会の年が明けました。

今年は国際言語文化アカデミアの「就学・進学サポート教室」の梅田玲子先生に講師をお願いし、時間ぎりぎりまで熱心にご指導いただきました。当日欠席した生徒が3名、貴重な機会を逃したことが心残りでした。高校受検の願書提出も間近、子どもたちの面接練習が今日もどこかで行われていることでしょう。

### ◆23年度の活動を振り返って

22年度のスピーチ会、春の教室、理科実験教室、卒業を祝う会などは震災のた

め中止。

補習教室では中学生、中学既卒者は25人全員全日制に進学(公立16人うち都立1人、私立9人)、大学進学7名、専門学校進学1人。卒業した子どもには全員小学生、中学生、高校生それぞれに記念品を用意しお祝いメッセージとともに郵送しました。

この時期、23年度の活動について先送りにする傾向が見られ、そういう雰囲気の中で夏のキャンプやバスハイクについてさえ状況判断が難しく実施を危ぶむ声も聞かれました。

震災による不安材料だけでなく、ユッカの会へ参加している学習者の現状把握がずれているのではないかと議論にまで発展しました。学習者の減少もあり、各教室のあり方、イベントの内容等、ユッカの会のあり方を検討し続けた1年となりました。

結果的には全ての活動を実施したことになります。詳しい内容はホームページや通信をご覧ください。

ユッカの会ホームページアドレス:

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/miyairi/>

5月にはボランティア懇談会を開催、現況報告を利用して、ボランティア同士の出会いの場を作るなどの要望が出ました。結果各自が持参できるユッカの会の立て札を作り、通信を利用して情報共有を工夫するなど前向きに取り組みが行われています。

また9月行われたボランティア懇談会では「多くの方々の参加を得るには」という課題が残りましたが、教材リスト作成など大きな成果がありました。

8月には終戦記念日の特集として神奈川新聞社が沼波代表を取材し、ユッカの会も紹介されました。

### ①補習教室

前記しましたように3月の行事は全て中止しましたが、4月から母国に帰った子どもたちのことを気にしながらの活動が始まりました。いまだに帰国したままの子どももいますが、どうか母国で落ち着いてしっかり根を張って生きる力を蓄えて欲しいと願っています。

夏・冬の集中教室には明治学院大学のこころの皆さん、三本松先生引率で立教大学生など外部の方々のご協力をいただき1対1の充実した学習ができました。

震災後男女共同参画センターの利用時間制限がきびしくなり、戸塚教室ではいまだに活動が分散しています。残念です

が、解決策が見つからないままです。

1月22日には成人を祝う会、今年に入って子どもたちの声に押されて実施が決定しました。頼りなげな中学生が立派に成長した姿を笑顔で見守るボランティア、素晴らしいひと時となることでしょう。

### ②日本語教室

教室の学習者が激変したことが何回も話題になった年でした。平成23年における外国人入国者数(再入国者数を含む。)は約714万人で、前年に比べ約231万人(約24.4パーセント)減少したと報道があり、この影響大なのだと納得しました。

学習者のニーズにあった教室活動、まだまだ試行錯誤が続きます。

### ③パソコン教室

学校の授業に対応した補習的な内容を求めてくる高校生がいました。授業についていくためのPCの補習、これからニーズがあるのではと思います。要検討課題です。



### ＜これからの教室活動＞

1. 補習教室(横浜・戸塚・本郷台教室)

問い合わせ: 岩松 文江 TEL: 922-4987

・集中教室(春の教室) 3月26日 306号会議室

2. 日本語教室(横浜・戸塚・本郷台教室)

問い合わせ: 砂田 順子 TEL: 365-9355

3. パソコン教室(横浜教室)

問い合わせ: 宮入 靖夫 TEL: 851-0097

### ＜これからの交流活動＞

1. 成人を祝う会 1月22日 県民センター

担当: 日向 TEL: 571-6266

2. 春節を祝う会 2月29日 横浜市技能文化会館

担当: 波多野 TEL: 572-8237

3. 市民活動フェア 3月10日、11日 県民センター

担当: 波多野 TEL: 572-8237

スピーチ会 3月11日 担当: 波多野 TEL: 572-8237

4. 卒業を祝う会 3月25日 304号会議室

担当: 岩松 TEL: 922-4987

5. 理科実験教室 3月25日 304号会議室

担当: 岩松 TEL: 922-4987

**<事務局>** 事務局会議 毎月第3土曜日

今年度の試みとして連絡会を廃止して連絡会のメンバーの方に毎月の事務局会議への参加をお願いしました。その結果は年度末に結論を出し、24年度の活動に反映したいと考えています。

運営は神奈川県社会福祉協議会のともしび基金、中国残留孤児援護基金、神奈川新聞厚生文化事業団からの助成金、会員の寄付で賄われました。

無料で利用できるあーすぷらざ、県民センター、男女共同参画センターのフリースペースはなくてはならない教室活動の場です。時間制限が緩やかになることを願います。

活動の場、資金、人の確保に恵まれたユッカの会ですが、今後は厳しさも覚悟しなければと思っています。また、貧困、離婚、DV、不登校、いじめ等子どもや母親を取り巻く状況も複雑です。相談件数が多かったことも気になります。

共に学び育つ・・・ユッカの会の目指すものを皆さんで共有し、今年こそは事務局も新しいメンバーにバトンタッチできるよう願っています。

皆様のご意見、ご要望を事務局までお聞かせください。

(ユッカの会事務局長)

